

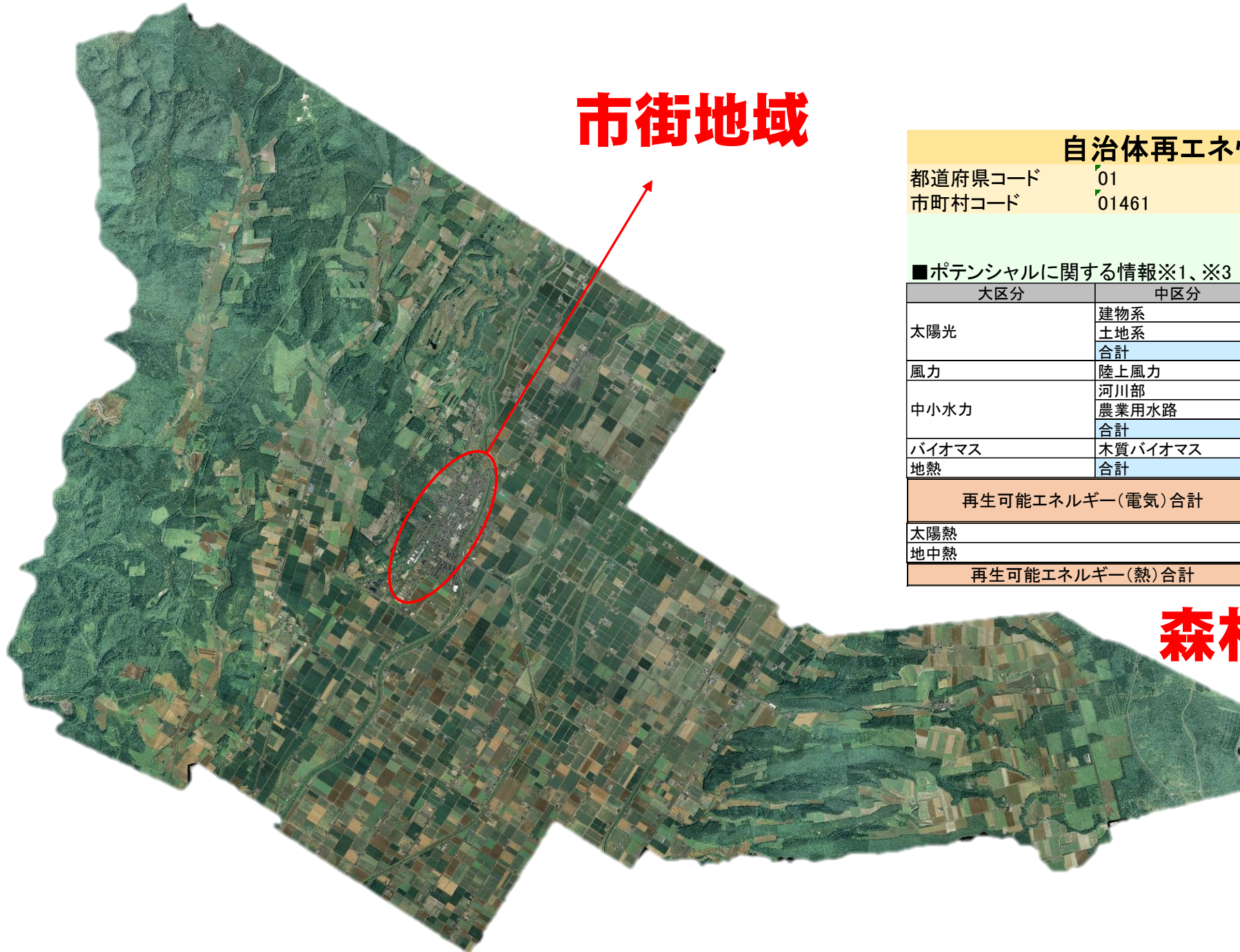
「再エネポテンシャルの低いまち」と「ゼロカーボン」



北海道中富良野町



市街地域



自治体再エネ情報カルテ(概要版)

都道府県コード	01	都道府県	北海道
市町村コード	01461	市町村	中富良野町

■ポテンシャルに関する情報※1、※3

大区分	中区分	賦存量	導入ポテンシャル	単位
太陽光	建物系	—	43.713	MW
	土地系	—	1,482.594	MW
	合計	—	1,526.307	MW
風力	陸上風力	219.500	83.600	MW
中小水力	河川部	—	0.044	MW
	農業用水路	—	0.000	MW
	合計	—	0.044	MW
バイオマス	木質バイオマス	—	—	MW
地熱	合計	0.000	0.000	MW
再生可能エネルギー(電気)合計		—	1,609.951	MW
		—	1,933,721.244	MWh/年
太陽熱		—	25,400.671	GJ/年
地中熱		—	262,841.806	GJ/年
再生可能エネルギー(熱)合計		—	288,242.477	GJ/年

森林面積も少ない



中富良野町の概要

ココです！

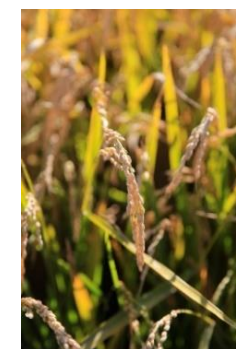
人口・世帯数等

- 4,695人 (R4.11.30現在)
- 2,184世帯
- 108.65km² (東西17.9km、南北13.4km)



基幹産業 (農業・観光業)

- 農家戸数) 289戸 ※減少傾向
- 平均耕作面積) 13.6ha ※30~50haも多い
- 主要作物) 水稲1,134ha、玉葱810ha、馬鈴薯107ha、メロン24ha
- 「クリーン農業推進の町宣言」平成11年3月
- 年間約100万人の観光客(ラベンダー)



企業に求めること

- 「農業振興」と「脱炭素」の同時実現
- 農作業機(トラクター等)の再エネ等の導入
- 農作業機格納庫等への太陽光発電導入
- ・PPP、PFIによる公共施設等の活性化



脱炭素に取り組む上での課題

- 脱炭素事業といっても非常に範囲が広く、また担当部署以外との調整も多く、なかなか事業を進めづらい…。(庁舎内の公共施設の整備、再生可能エネルギー導入等)
- 何が正解かわからず、いろいろな情報を得ることは出来るが、決断が出来ない
- **町全体での脱炭素事業となるものがない**

脱炭素の観点で、今後取り組みたいこと

- 基幹産業である「**農業の振興**」と「**脱炭素**」を**同時実現**出来る事業を行いたい。
→住民の多くを占める農業者を脱炭素事業に組み込み、**町の一体感**を持ちたい。
→中富良野町の農作物の**ブランド力向上**にも寄与したい。
- セミナーやワークショップ開催(町民、町内事業者を対象)
→脱炭素事業の重要性・**中富良野町の現在地**をテーマとし、**行動変容**に繋がることを行いたい。

いろいろ課題や協力をお願いしたいことあるんですが…、
今回は**農業分野での脱炭素の可能性**を模索

企業に求めたいこと

- 大型化するトラクターの脱炭素化
- 格納庫や大コン置き場等への太陽光発電導入
- 脱炭素に繋がる資材の導入(農地への炭素貯留も含め)

再エネポテンシャルは低いけど・・・

町民・町内企業との連携も
スピード感をもってできる



町議会も積極的

面積は小さいが
良く言えばコンパクトシティ



「ゼロカーボンに取り組む意欲の高いまち」 なかふらの